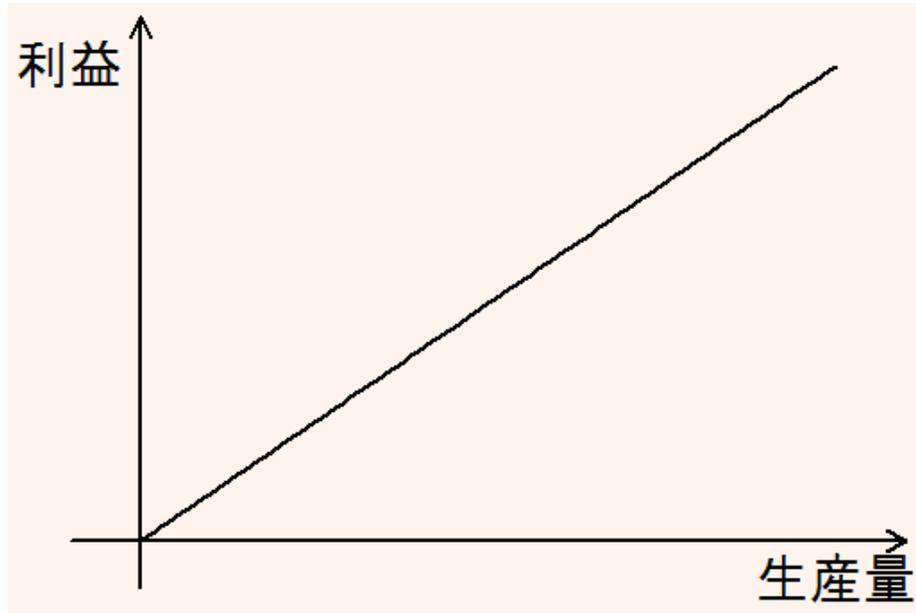


非線形最適化問題

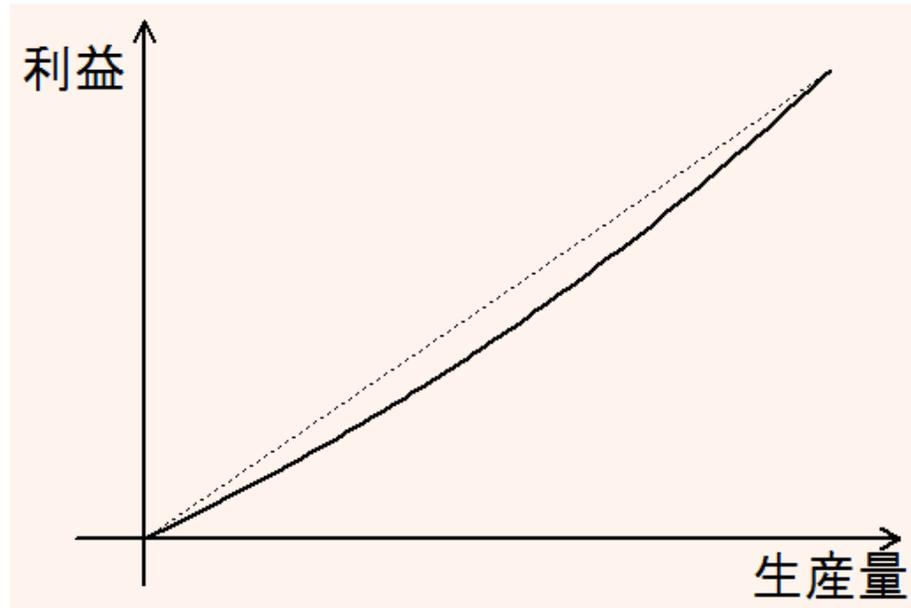
非線形最適化問題

生産量と利益見込み(線形関係)



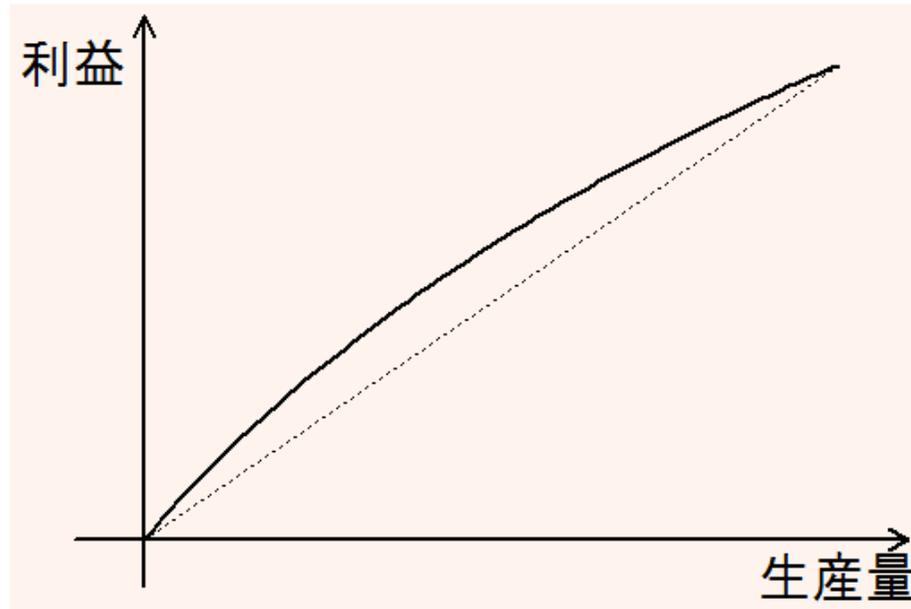
非線形最適化問題

生産量と利益見込み(非線形関係)



非線形最適化問題

生産量と利益見込み(非線形関係)



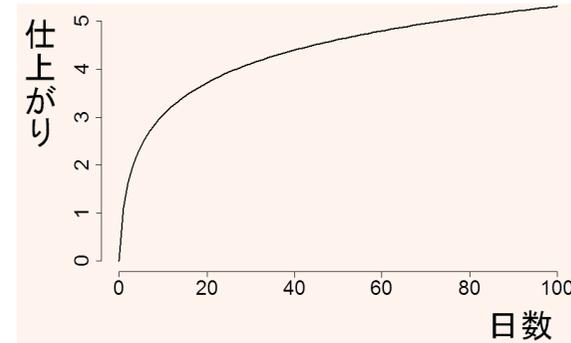
非線形最適化問題

制約のある非線形最適化問題

- 工程 i ($i = 1, 2, \dots, n$) に x (日) かけた時の仕上がりの程度

$$\log(a_i x + 1) \quad a_i > 0$$

- 各工程は最低 $t_i (> 0)$ 日かかる
- 全工程を T 日以内に終わらせなければならない
- 仕上がりの和を最大にするには、各工程に何日かければよいか



非線形最適化問題

制約のある非線形最適化問題

- 工程 i に x_i 日かける
- 目的関数 z は各工程の仕上がり程度の総和

$$z = \sum_{i=1}^n \log(a_i x_i + 1)$$

非線形最適化問題

制約のある非線形最適化問題

- 工程 i には最低 t_i (日) かかる

$$x_i \geq t_i \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

- 全工程を T 日以内に終わらせる

$$\sum_{i=1}^n x_i \leq T$$

非線形最適化問題

制約のある非線形最適化問題

$$\text{最大化 } z = \sum_{i=1}^n \log(a_i x_i + 1)$$

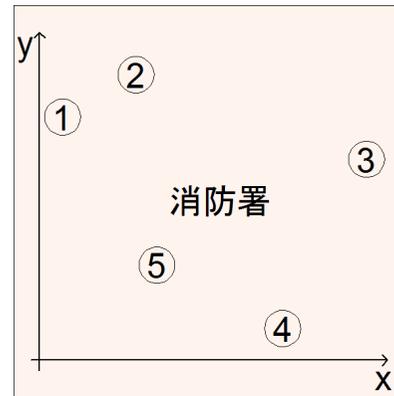
$$\text{制約条件 } x_i \geq t_i \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

$$\sum_{i=1}^n x_i \leq T$$

非線形最適化問題

制約のない非線形最適化問題

- 5つの人口密集地区
(1, 2, 3, 4, 5)
- 消防署はこれら5つの地区への直線距離の和が最小になる位置に設置
- 消防署を設置すべき位置を求めよ



地区	x	y
1	1	12
2	4	14
3	15	10
4	11	2
5	5	5

非線形最適化問題

制約のない非線形最適化問題

- 消防署の位置の座標を (x, y)
- 地区 i ($i = 1, 2, 3, 4, 5$) の位置の座標 (x_i, y_i)
- 消防署と地区 i の直線距離は,

$$\sqrt{(x - x_i)^2 + (y - y_i)^2}$$

非線形最適化問題

制約のない非線形最適化問題

- 消防署の位置の座標を (x, y)
- 地区 i ($i = 1, 2, 3, 4, 5$) の位置の座標を (x_i, y_i)
- 目的関数 z は消防署と各地区の直線距離の和で

$$z = \sum_{i=1}^5 \sqrt{(x - x_i)^2 + (y - y_i)^2}$$

- z を最小化する x, y を求める問題

非線形最適化問題

非線形最適化問題の一般形

最小化 $f(\mathbf{x})$

制約 $g_i(\mathbf{x}) = 0 \quad (i = 1, 2, \dots, m)$

$h_j(\mathbf{x}) \leq 0 \quad (j = 1, 2, \dots, l)$

- \mathbf{x} は n 変数のベクトル $[x_1, x_2, \dots, x_n]^T$

非線形最適化問題

今回の前提

- 制約のない非線形最適化問題の最適化
- 問題は最小化問題
- 目的関数 $f(x)$ は考慮すべき x の領域において2階微分可能
- 2階微分は連続関数

非線形最適化問題

最適性の条件

- 任意の x に対して $f(x^*) \leq f(x)$ を満たす x^*
… 関数 f の最小化問題の大域最適解
- x^* の周囲の x に対して $f(x^*) \leq f(x)$ を満たす x^*
… 関数 f の最小化問題の局所最適解
- 大域最適解は局所最適解であるが、局所最適解は一般には大域最適解とはならない

非線形最適化問題

- 1変数関数 $f(x)$
- 関数 $f(x)$ の増減を調べるには、関数の変化率を表す (1階) 導関数 (微分)

$$f'(x) = \frac{df(x)}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x + \Delta x) - f(x)}{\Delta x}$$

- 導関数の変化率を表す 2階導関数

$$f''(x) = \frac{d^2 f(x)}{dx^2} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f'(x + \Delta x) - f'(x)}{\Delta x}$$

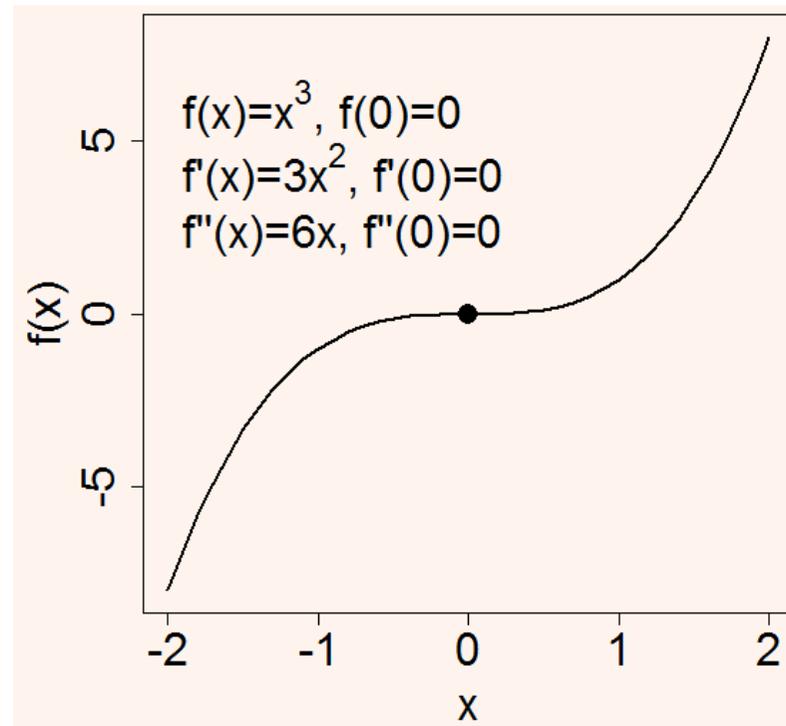
非線形最適化問題

最適性の条件

- $f'(x)$ は x における $f(x)$ の変化率 (接線の傾き)
- x において, $f'(x)$ が正なら x において $f(x)$ は増加
- $f'(x)$ が負なら x において $f(x)$ は減少
- x において $f(x)$ が極小値あるいは極大値
→ x において $f'(x) = 0$
- $f'(x) = 0$ なら必ずしも極小値あるいは極大値
になっている訳ではない

非線形最適化問題

最適性の条件



非線形最適化問題

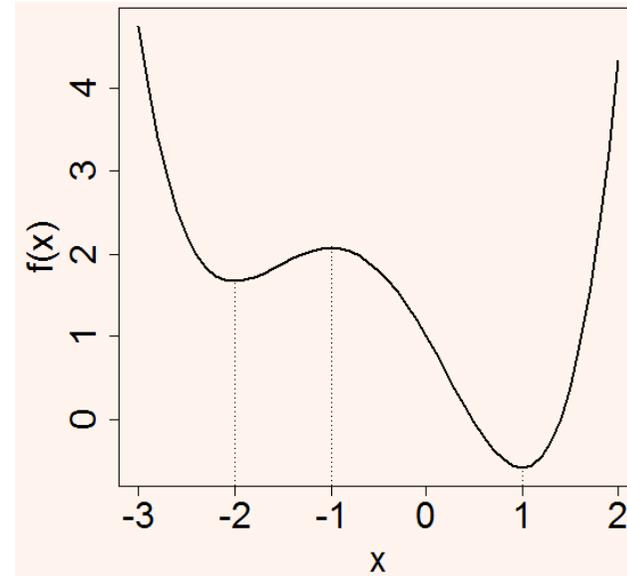
最適性の条件

- $f'(x) = 0$ のとき, x において $f(x)$ が極小値であるか極大値であるかの判別
- $f''(x)$ が正なら $f(x)$ は下に凸な曲線 (∪) … 極小値
- $f''(x)$ が負なら $f(x)$ は上に凸な曲線 (∩) … 極大値
- $f''(x)$ が 0 の場合, これだけからは最適性の判定はできない

非線形最適化問題

最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$



非線形最適化問題

最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$

$$f'(x) = x^3 + 2x^2 - x - 2 = (x + 2)(x + 1)(x - 1)$$

$$\bullet x = -2, -1, 1 \rightarrow f'(x) = 0$$

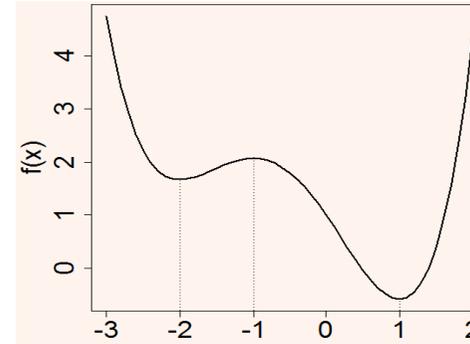
$$f''(x) = 3x^2 + 4x - 1$$

$$\bullet x = \frac{-2 \pm \sqrt{7}}{3} \rightarrow f''(x) = 0$$

非線形最適化問題

最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$

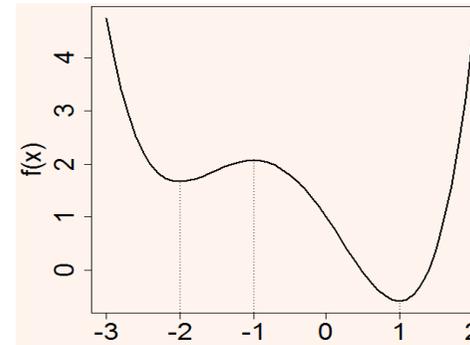


x	< -2	-2		$\frac{-2-\sqrt{7}}{3}$		-1		$\frac{-2+\sqrt{7}}{3}$		1	> 1
$f'(x)$	$-$	0	$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$	0	$+$
$f''(x)$	$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$	0	$+$	$+$	$+$
$f(x)$	\cup	$\frac{5}{3}$ 極小	\cup		\cap	$\frac{25}{12}$ 極大	\cap		\cup	$\frac{-7}{12}$ 極小	\cup

非線形最適化問題

最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$

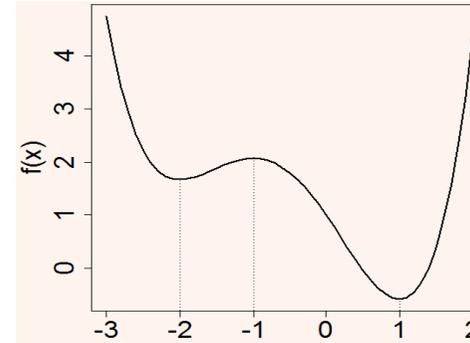


x	< -2	-2		$\frac{-2-\sqrt{7}}{3}$		-1		$\frac{-2+\sqrt{7}}{3}$		1	> 1
$f'(x)$	$-$	0	$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$	0	$+$
$f''(x)$	$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$	0	$+$	$+$	$+$
$f(x)$	\cup	$\frac{5}{3}$ 極小	\cup		\cap	$\frac{25}{12}$ 極大	\cap		\cup	$\frac{-7}{12}$ 極小	\cup

非線形最適化問題

最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$



x	< -2	-2		$\frac{-2-\sqrt{7}}{3}$		-1		$\frac{-2+\sqrt{7}}{3}$		1	> 1
$f'(x)$	$-$	0	$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$	0	$+$
$f''(x)$	$+$	$+$	$+$	0	$-$	$-$	$-$	0	$+$	$+$	$+$
$f(x)$	\cup	$\frac{5}{3}$ 極小	\cup		\cap	$\frac{25}{12}$ 極大	\cap		\cup	$-\frac{7}{12}$ 最小	\cup

非線形最適化問題

最適性の条件

- n 変数関数 $f(\mathbf{x})$ ($\mathbf{x} = [x_1, x_2, \dots, x_n]^T$) の偏導関数

$$\frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_i} = \lim_{\Delta x_i \rightarrow 0} \frac{f(x_1, \dots, x_i + \Delta x_i, x_{i+1}, \dots, x_n) - f(x_1, \dots, x_i, x_{i+1}, \dots, x_n)}{\Delta x_i}$$

$$\frac{f(x_1, \dots, x_i + \Delta x_i, x_{i+1}, \dots, x_n) - f(x_1, \dots, x_i, x_{i+1}, \dots, x_n)}{\Delta x_i}$$

- x_i のみを独立変数と見なして微分

非線形最適化問題

最適性の条件

- 偏導関数 $\frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_i}$, $f_{x_i}(\mathbf{x})$ を成分とする n 次元ベクトル

$$\nabla f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} \frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_1} \\ \frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_2} \\ \vdots \\ \frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_n} \end{bmatrix}$$

勾配ベクトル

非線形最適化問題

最適性の条件

- 2階の偏導関数 $\frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_i \partial x_j}$, $f_{x_i x_j}(\mathbf{x})$ を成分とする $n \times n$ 行列

$$\nabla^2 f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_1^2} & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_1 \partial x_2} & \cdots & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_1 \partial x_n} \\ \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_2 \partial x_1} & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_2^2} & \cdots & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_2 \partial x_n} \\ & & \vdots & \\ \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_n \partial x_1} & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_n \partial x_2} & \cdots & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_n^2} \end{bmatrix}$$

ヘッセ行列

非線形最適化問題

最適性の条件

$n \times n$ 行列 M

- 任意の n 次元ベクトル x に対して

$$x^T M x \geq 0$$

を満たすとき，行列 M は半正定値

- 任意の実数 x に対して

$$m x^2 \geq 0$$

を満たすとき， $m \geq 0$

非線形最適化問題

最適性の条件

$n \times n$ 行列 M

- 零ベクトルを除く任意の n 次元ベクトル x に対して

$$x^T M x > 0$$

を満たすとき、行列 M は正定値

- 0 を除く任意の実数 x に対して

$$m x^2 > 0$$

を満たすとき、 $m > 0$

非線形最適化問題

最適性の条件

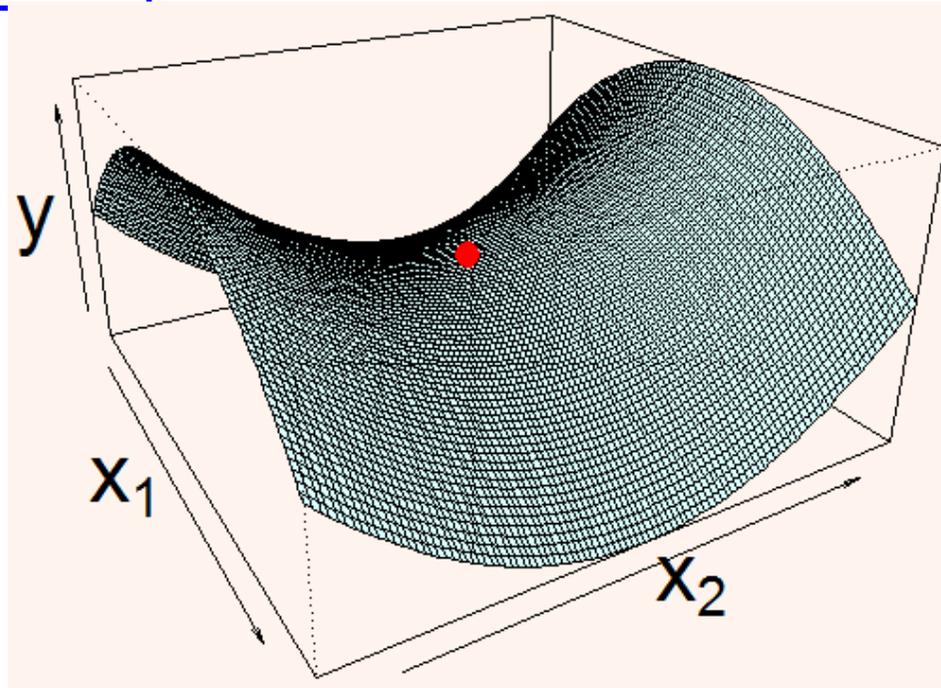
- x が局所最適解であれば

$$\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

- x が局所最適解であるための必要条件
 - … 1次の必要条件
- $\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$ を満たす x
 - … $f(\boldsymbol{x})$ の停留点

非線形最適化問題

最適性の条件



非線形最適化問題

最適性の条件

- \boldsymbol{x} が局所最適解であれば

$$\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

かつ

$\nabla^2 f(\boldsymbol{x})$ は半正定値

- \boldsymbol{x} が局所最適解であるための必要条件
… 2次の必要条件

非線形最適化問題

最適性の条件

$$\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

かつ

$\nabla^2 f(\boldsymbol{x})$ は正定値

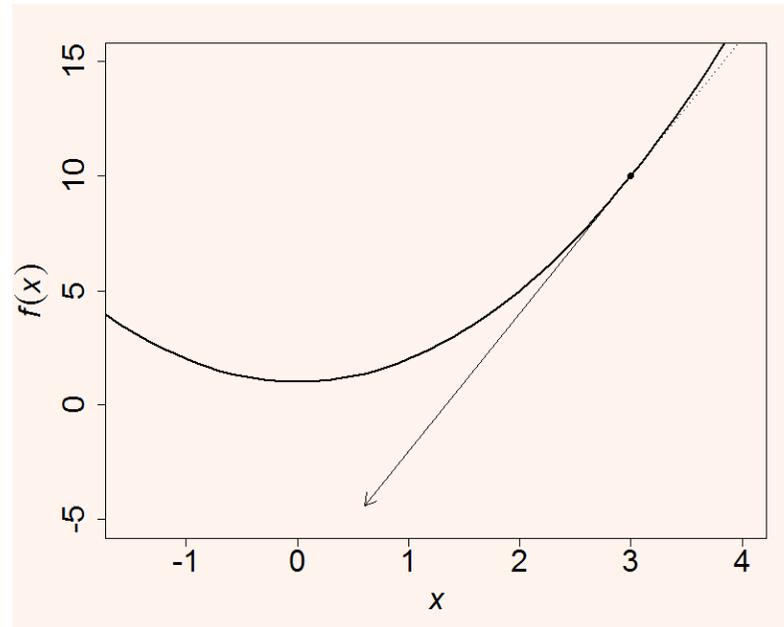
であれば

- \boldsymbol{x} は局所最適解
- \boldsymbol{x} が局所最適解であるための十分条件
… 2次の十分条件

最急降下法

最急降下法

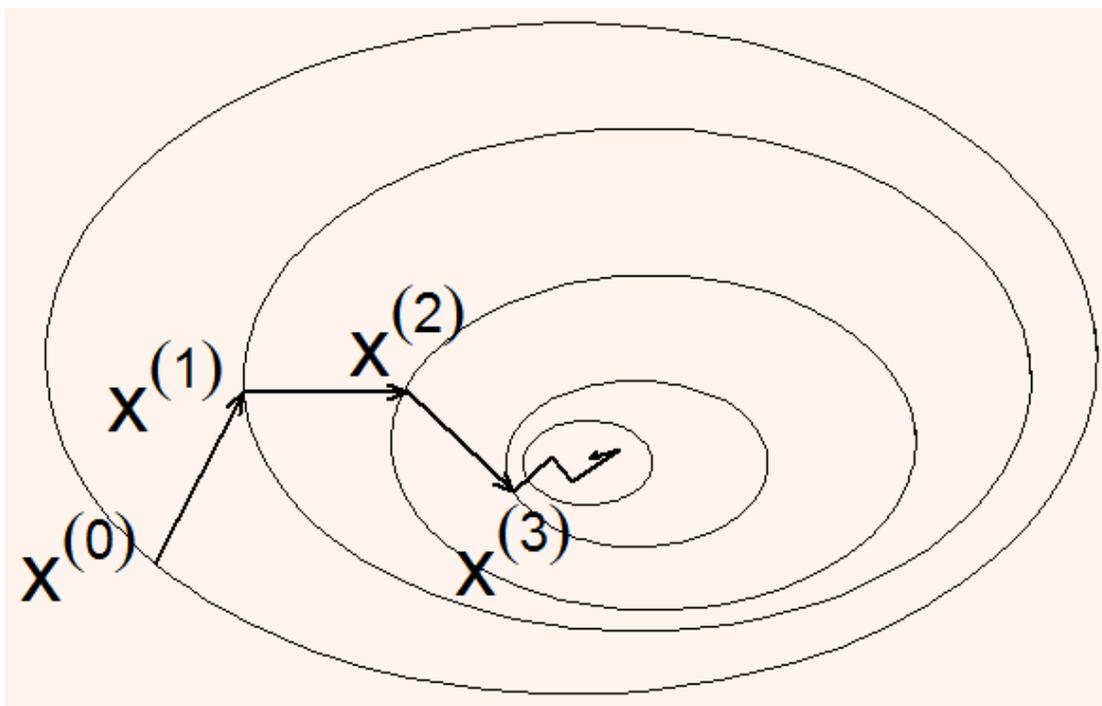
- $f'(x)$ … 関数 $f(x)$ の増加の割合
- x_0 において
 - $f'(x_0) > 0$ x を減少
 - $f'(x_0) < 0$ x を増加
- … $f(x)$ を減少



最急降下法

- 勾配ベクトル $\nabla f(\boldsymbol{x})$ の向き
 - … 関数 $f(\boldsymbol{x})$ を最も増加させる方向
- 勾配ベクトルの反対方向に \boldsymbol{x} を変化させる
 - … $f(\boldsymbol{x})$ を減少
- これを繰り返すことにより局所最適解に到達
 - … 最急降下法

最急降下法



最急降下法

- k 回目の繰り返しにおいて $\mathbf{x}^{(k)}$ であるとき

$$\mathbf{x}^{(k+1)} \leftarrow \mathbf{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\mathbf{x}^{(k)})$$

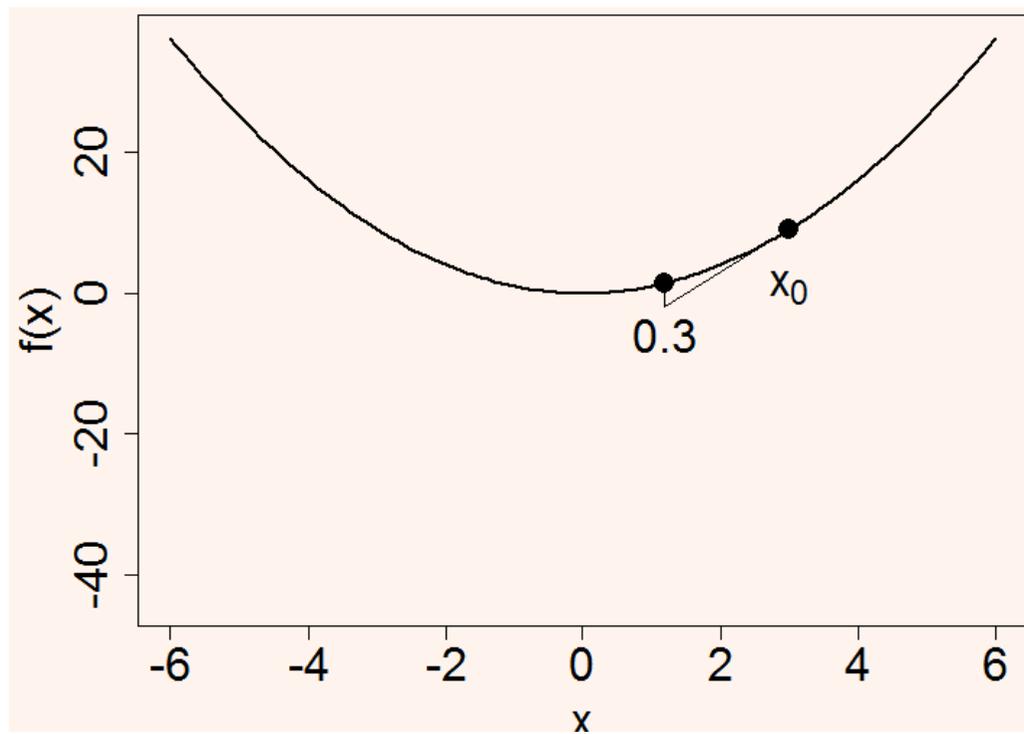
と更新

- $\alpha^{(k)}$ は正の数

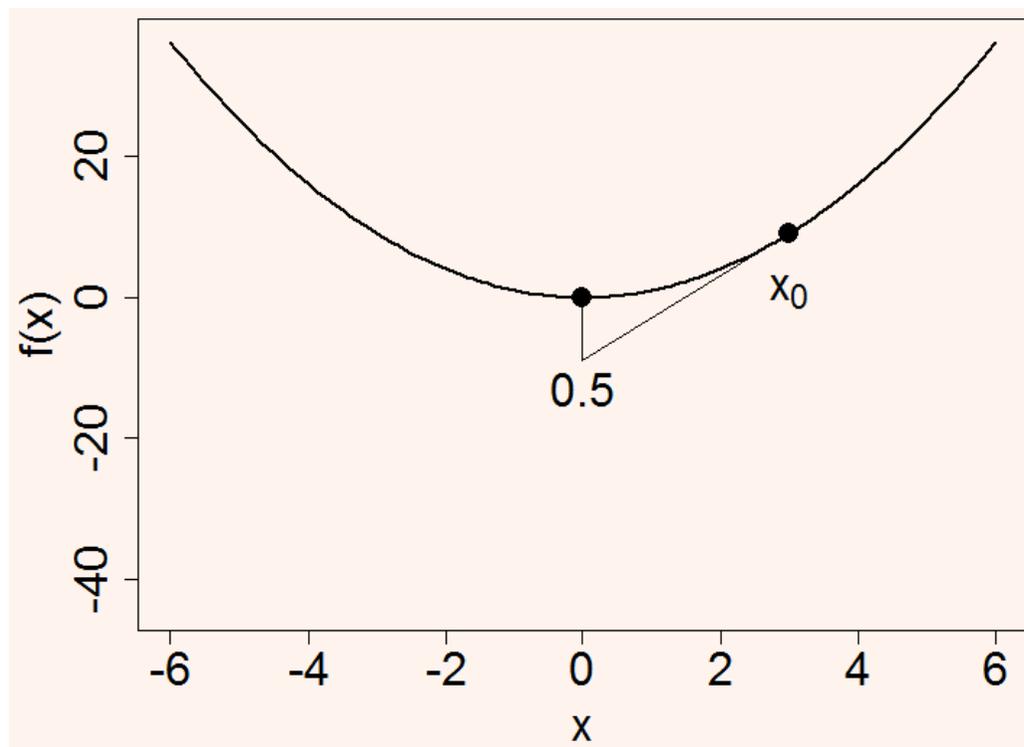
$$f(\mathbf{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\mathbf{x}^{(k)}))$$

が極小に(近く)なるように定める

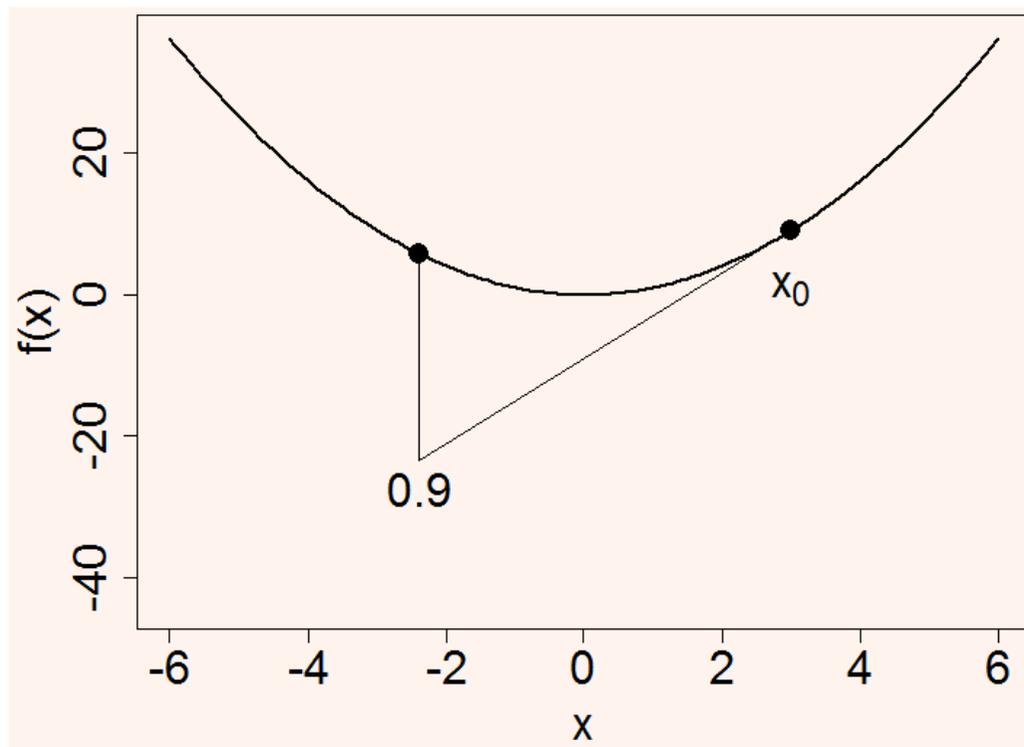
最急降下法



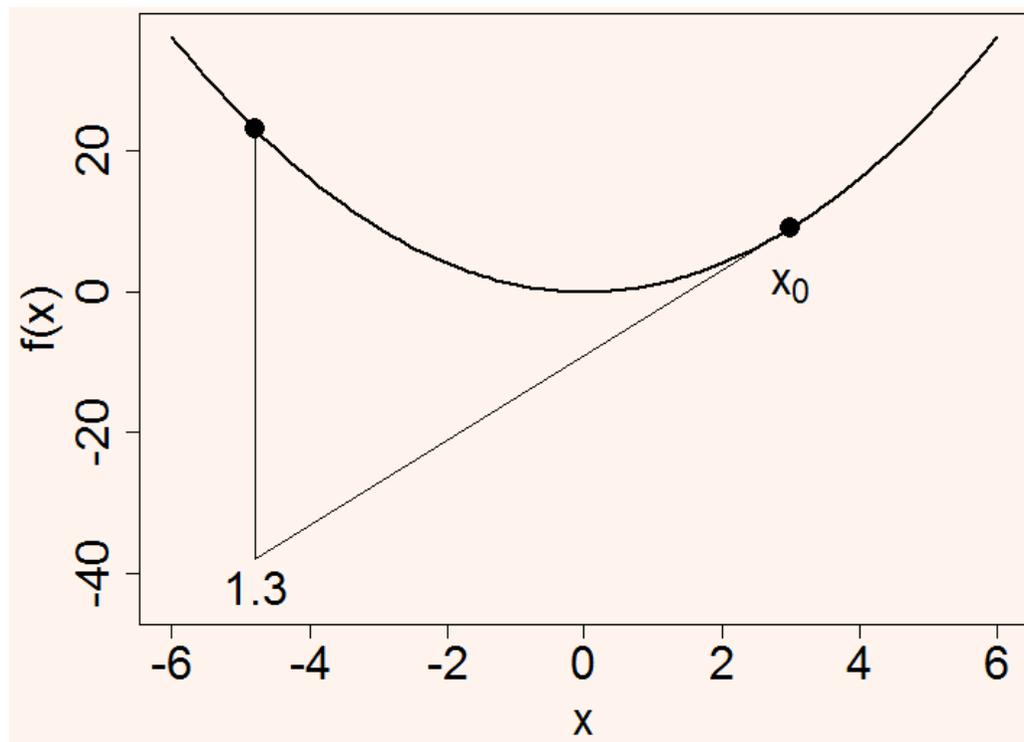
最急降下法



最急降下法



最急降下法



最急降下法

- (0) \boldsymbol{x} の適当な初期値 $\boldsymbol{x}^{(0)}$ を定める $k \leftarrow 0$
- (1) $\nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}) = \mathbf{0}$ ならば $\boldsymbol{x}^{(k)}$ を局所最適解として終了
そうでなければ (2) へ
- (2) $f(\boldsymbol{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}))$ が極小に (近く) なるような $\alpha^{(k)}$ を求め

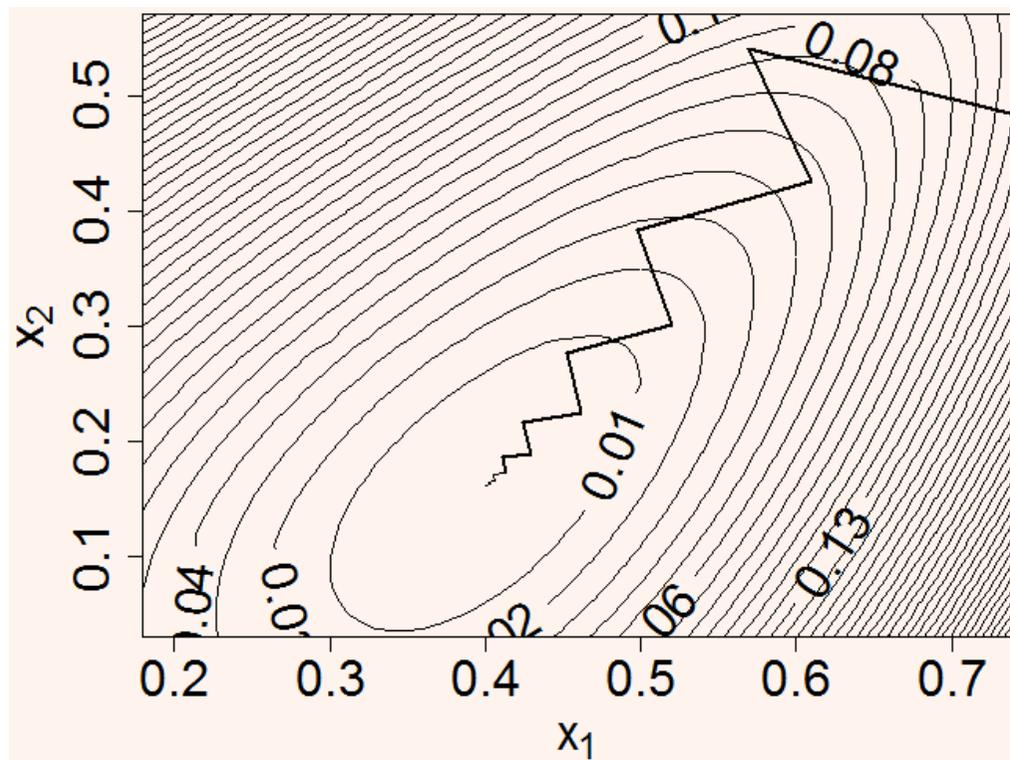
$$\boldsymbol{x}^{(k+1)} = \boldsymbol{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})$$

により $\boldsymbol{x}^{(k)}$ を更新 $k \leftarrow k + 1$ として (1) へ

最急降下法

- 実際の終了基準
小さな正の数 ε に対して
 $|\nabla f(\mathbf{x}^{(k)})| < \varepsilon$
- \mathbf{x} の任意の初期値に対して局所最適解に収束する
… 大域収束性
- 収束までに多数の繰り返し数を要することが多い

最急降下法



ニュートン法

ニュートン法

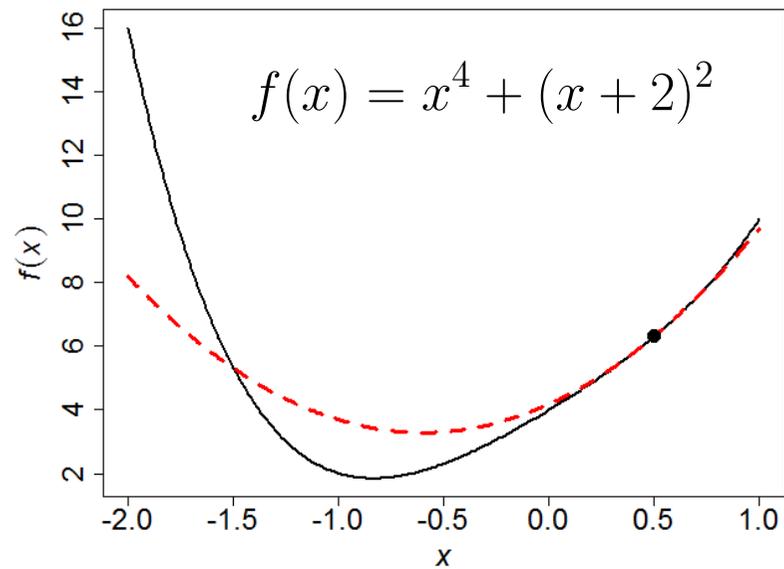
- 1変数関数 $f(x)$ は、定数 $x^{(k)}$ のまわりでテイラー展開により

$$f(x) = f(x^{(k)}) + f'(x^{(k)})(x - x^{(k)}) + \frac{1}{2!} f''(x^{(k)}) (x - x^{(k)})^2 \\ + \frac{1}{3!} f'''(x^{(k)}) (x - x^{(k)})^3 + \dots$$

と近似できる

- 1次関数，2次関数で近似することが多い

ニュートン法



$$g(x) = f(0.5) + f'(0.5)(x - 0.5) + \frac{1}{2}f''(0.5)(x - 0.5)^2$$

ニュートン法

- $f(x)$ を $x^{(k)}$ のまわりで2次関数 $g(x)$ と近似する

$$g(x) = f(x^{(k)}) + f'(x^{(k)})(x - x^{(k)}) \\ + \frac{1}{2}f''(x^{(k)})(x - x^{(k)})^2$$

- $f''(x^{(k)}) > 0$ と仮定すれば
最適性の1次の必要条件

$$g'(x) = 0$$

を満たす x において $g(x)$ は最小

ニュートン法

- 最適解 x は

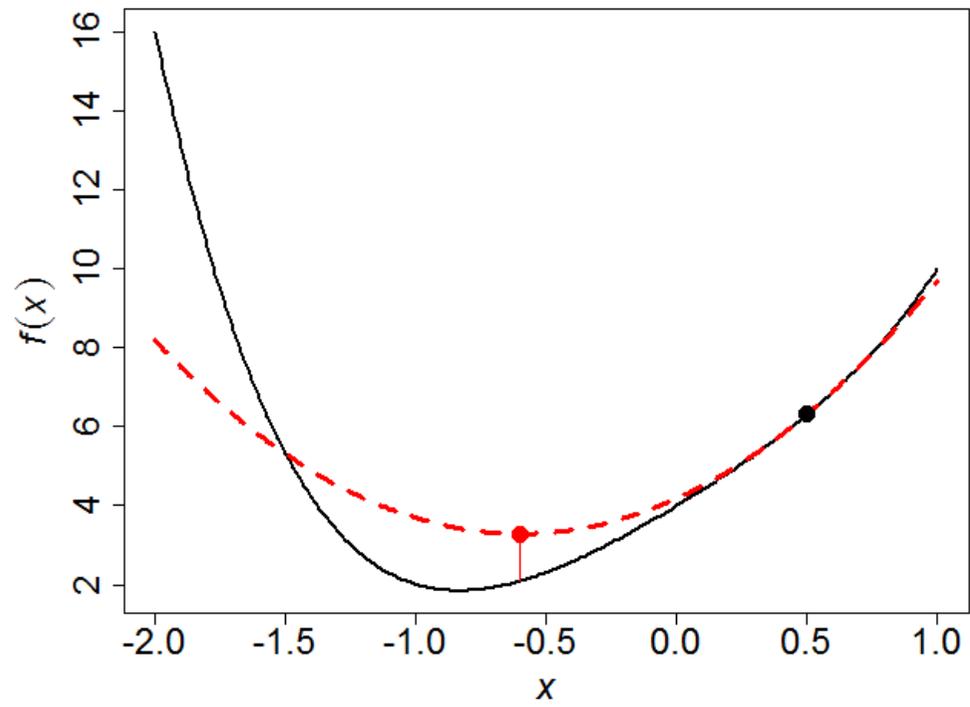
$$g'(x) = f'(x^{(k)}) + f''(x^{(k)})(x - x^{(k)}) = 0$$

を解いて

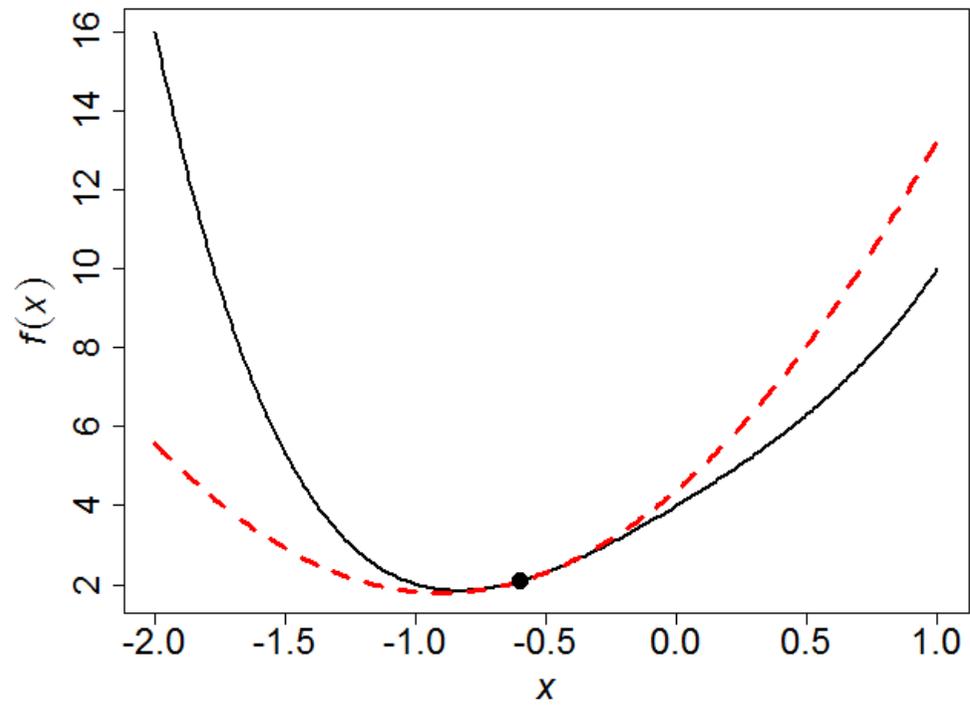
$$x = x^{(k)} - f'(x^{(k)})/f''(x^{(k)})$$

- x は $f(x)$ の近似式から導いたので近似解
- 更新を繰り返して $f(x)$ の局所最適解に到達
… ニュートン法

ニュートン法



ニュートン法



ニュートン法

- 多変数関数 $f(\mathbf{x})$ は、定数ベクトル $\mathbf{x}^{(k)}$ のまわりでテイラー展開により

$$\begin{aligned} f(\mathbf{x}) \simeq g(\mathbf{x}) = & f(\mathbf{x}^{(k)}) + \nabla f(\mathbf{x}^{(k)})^T (\mathbf{x} - \mathbf{x}^{(k)}) \\ & + \frac{1}{2} (\mathbf{x} - \mathbf{x}^{(k)})^T \nabla^2 f(\mathbf{x}^{(k)}) (\mathbf{x} - \mathbf{x}^{(k)}) \\ & + \dots \end{aligned}$$

と近似できる

ニュートン法

- $f(\boldsymbol{x})$ を $\boldsymbol{x}^{(k)}$ のまわりで 2次関数 $g(\boldsymbol{x})$ と近似する

$$g(\boldsymbol{x}) = f(\boldsymbol{x}^{(k)}) + \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})^T (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)}) \\ + \frac{1}{2} (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)})^T \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)}) (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)})$$

- ヘッセ行列 $\nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})$ が正定値と仮定すれば
最適性の1次の必要条件

$$\nabla g(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

を満たす \boldsymbol{x} において $g(\boldsymbol{x})$ は最小

ニュートン法

- 最適解 \boldsymbol{x} は

$$\nabla g(\boldsymbol{x}) = \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}) + \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})(\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)}) = \mathbf{0}$$

を解いて

$$\boldsymbol{x} = \boldsymbol{x}^{(k)} - \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})^{-1} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})$$

- \boldsymbol{x} は $f(\boldsymbol{x})$ の近似式から導いたので近似解
- 更新を繰り返して $f(\boldsymbol{x})$ の局所最適解に到達
… ニュートン法

ニュートン法

(0) \boldsymbol{x} の適当な初期値 $\boldsymbol{x}^{(0)}$ を定める $k \leftarrow 0$

(1) $\nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}) = \mathbf{0}$ ならば
 $\boldsymbol{x}^{(k)}$ を局所最適解として計算終了
そうでなければ (2) へ

(2) $\boldsymbol{x}^{(k+1)} \leftarrow \boldsymbol{x}^{(k)} - \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})^{-1} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})$
により $\boldsymbol{x}^{(k)}$ を更新 $k \leftarrow k + 1$ として, (1) へ

ニュートン法

数値例

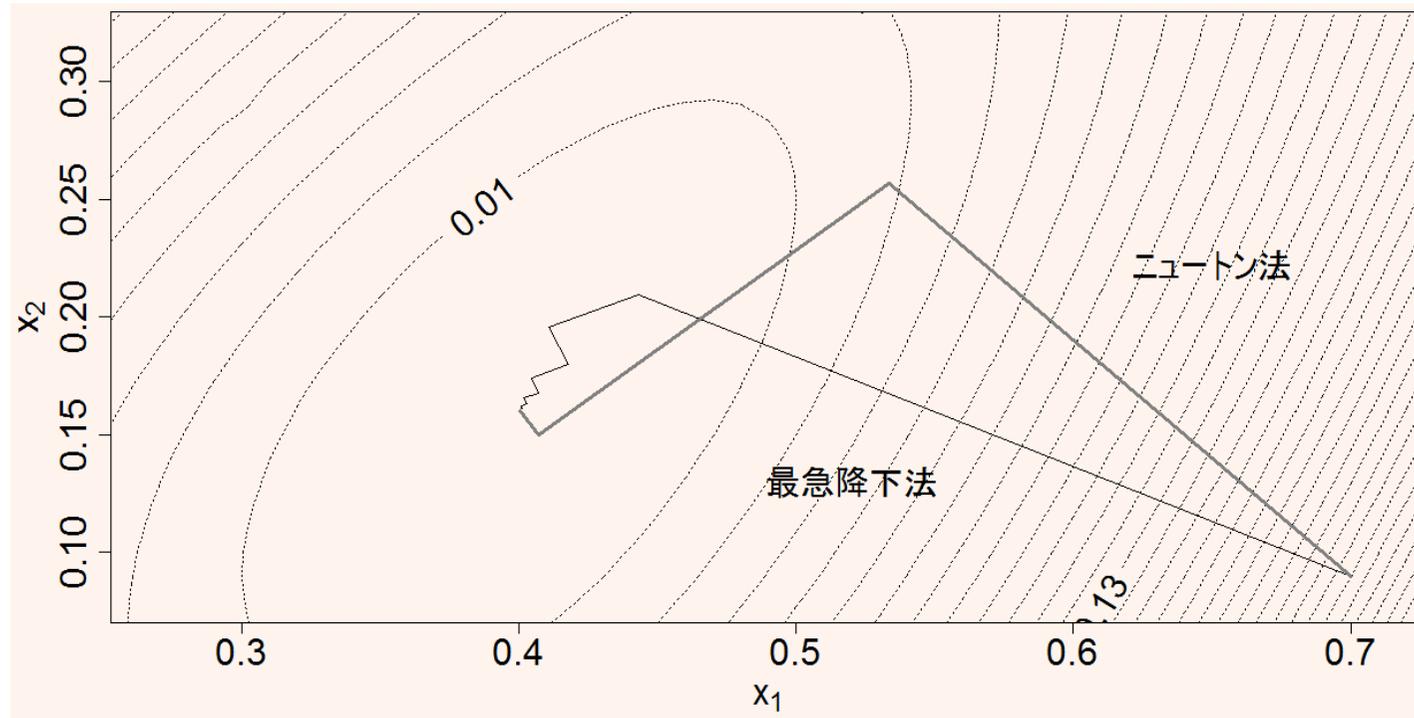
$$f(\mathbf{x}) = (x_1 - 0.4)^2 + (x_1^2 - x_2)^2$$

を最小化する \mathbf{x} を最急降下法とニュートン法を用いて求める

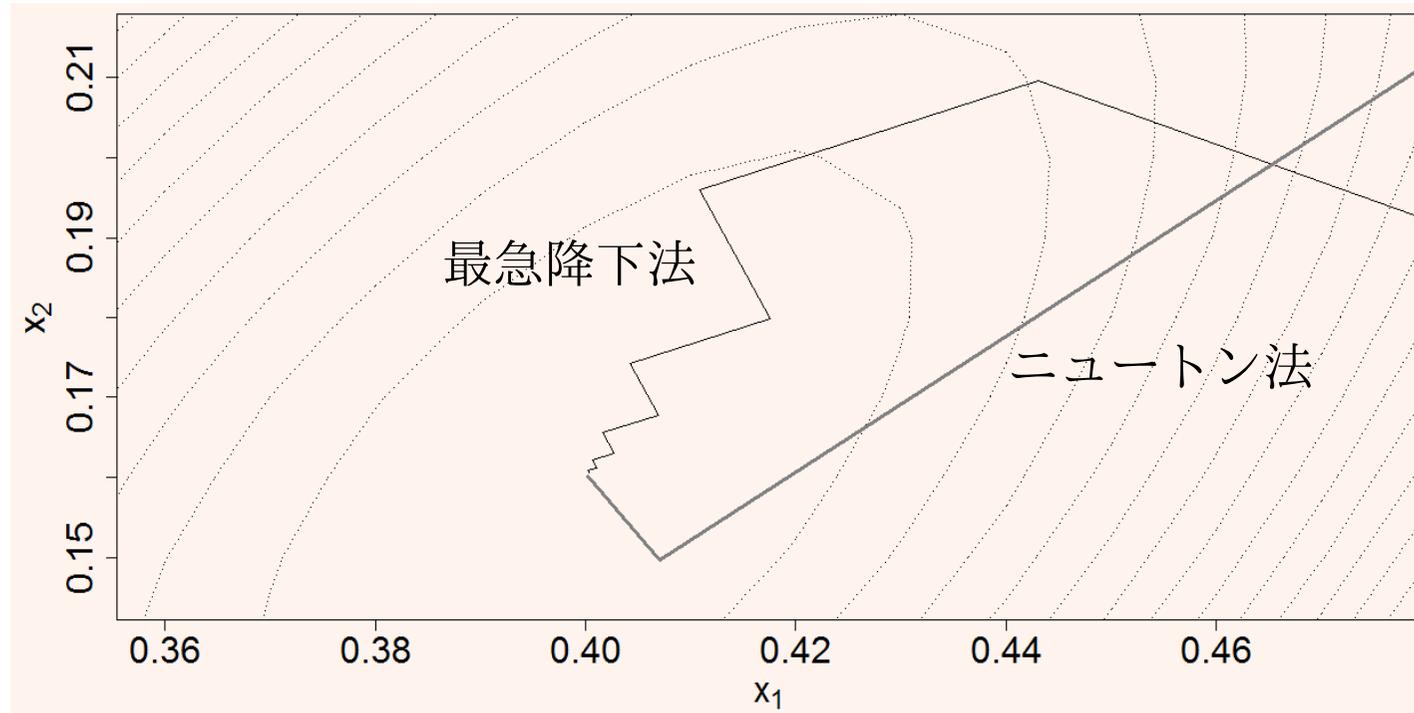
$$\nabla f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} 2(x_1 - 0.4) + 4x_1(x_1^2 - x_2) \\ -2(x_1^2 - x_2) \end{bmatrix},$$

$$\nabla^2 f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} 12x_1^2 - 4x_2 + 2 & -4x_1 \\ -4x_1 & 2 \end{bmatrix}$$

ニュートン法



ニュートン法



ニュートン法

- 局所最適解への収束が極めて速い
- ヘッセ行列が常に正定値であることを仮定
これが満たされない場合
→ 局所最適解への収束が保証されない
- 初期値が局所最適解に十分近ければ,
局所最適解への収束が保証される… 局所収束性

ニュートン法

準ニュートン法

- ヘッセ行列を勾配ベクトルなどから逐次近似

BFGS法

$$B^{(k+1)} = B^{(k)} + \frac{\mathbf{y}^{(k)}\mathbf{y}^{(k)T}}{\mathbf{y}^{(k)T}\mathbf{s}^{(k)}} - \frac{B^{(k)}\mathbf{s}^{(k)}\mathbf{s}^{(k)T}B^{(k)T}}{\mathbf{s}^{(k)T}B^{(k)}\mathbf{s}^{(k)}}$$

$$B^{(0)} = \mathbf{I}, \mathbf{s}^{(k)} = \mathbf{x}^{(k+1)} - \mathbf{x}^{(k)}, \mathbf{y}^{(k)} = \nabla f(\mathbf{x}^{(k+1)}) - \nabla f(\mathbf{x}^{(k)})$$